

1

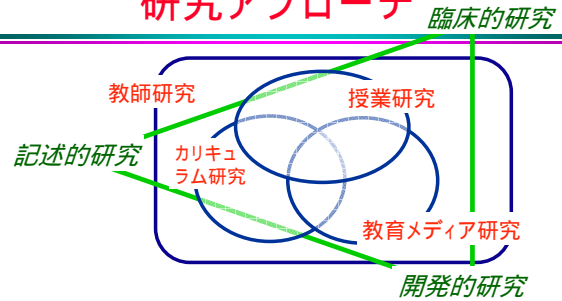
学校を基盤とする 学力向上アプローチ

- 自身の研究領域と研究アプローチ
- 学力の総合性・多元性とその育成主体の多様性
- 確かな学力を育む指導と評価の多様性
- 総合学力研究会による「学力向上のための基本調査2004」の結果から
- 学力向上に資する教育工学研究の内容・領域

大阪市立大学・木原俊行
<http://toshiyukikihara.cocolog-nifty.com/>

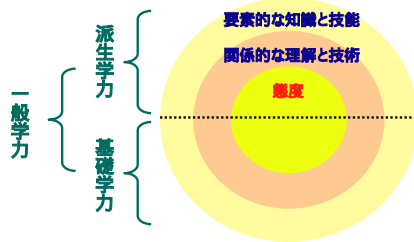
2

自身の研究領域と 研究アプローチ



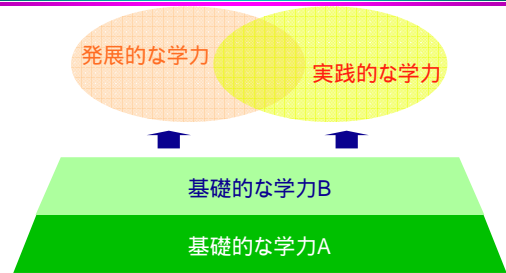
3

廣岡の学力論 (『学力論』明治図書, 1965年)



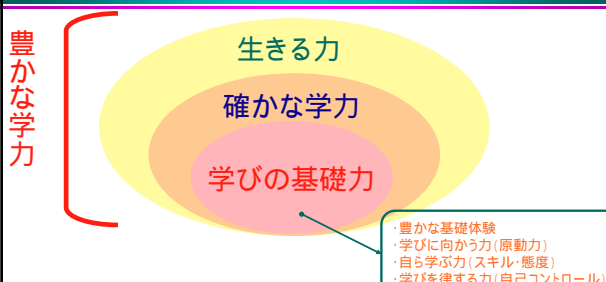
4

吉崎の学力論 (『新教育課程で育てる学力と新しい授業づくり』 ぎょうせい, 2004年)



5

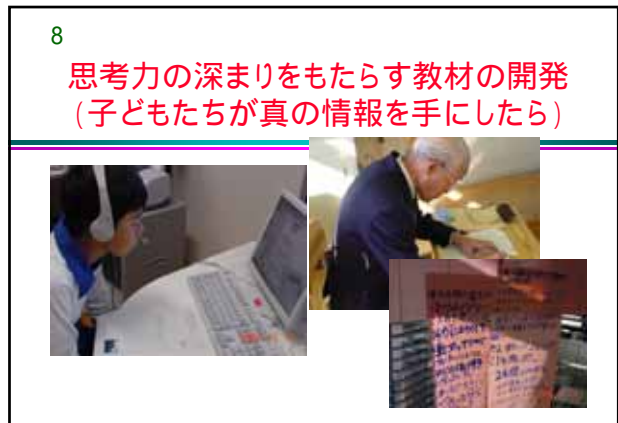
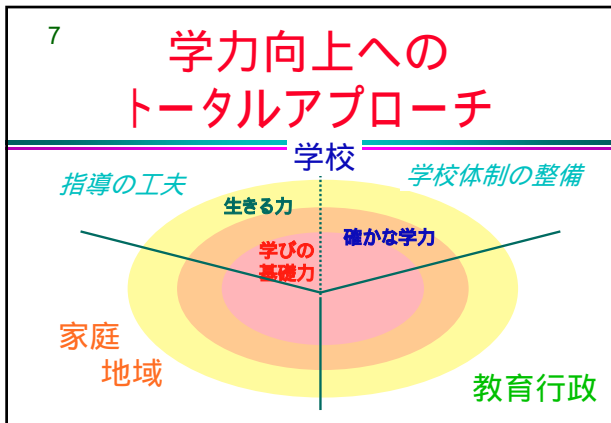
豊かな学力の核としての 確かな学力



6

学びの基礎力の育成事例

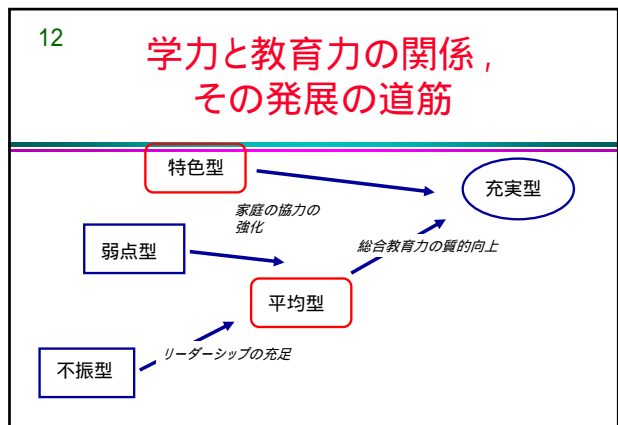




- ### 10 総合学力研究会による「学力向上のための基本調査2004」から
- (事務局:ベネッセ教育総研, 現ベネッセ教育研究開発センター)
- **総合学力調査**: 小学校第4・6学年の児童約5600名(36校), 中学校第3学年の生徒約3300名(29校)
 - **学力向上への取り組み状況調査**: 小中学校教諭約1180名, 小中学校教務主任約240名, 小中学校校長約230名
 - **教育意識調査**: 小学校保護者約3800名, 中学校保護者約2500名

11 「学力向上のための基本調査2004」の内容

対象	調査名称	内容
児童・生徒	国語学力調査	調査対象学年が前年度末までに学習した教科内容に対する学習の到達状況を、「知識・理解」「技能・表現」「思考・判断」の自観点から測る設問で構成。出題形式は選択式と記述式を併用。「関心・意欲・態度」は各教科ともアンケート形式で測定。
	算数/数学学力調査	
	英語学力調査(中3のみ)	
教師	学習意識調査	「学びの基礎力」「生きる力」についての自己評価ならびに学校や家庭での指導・活動についての認識を4件法で問う意識調査。
	指導の状況に関するアンケート(教諭対象)	「学力向上に向けての基本スタンス」「学力向上に関する学校としての取り組み状況」「日々の指導における学力向上の工夫」「学力向上施策の成果と課題認識」等について、それぞれの立場から4件法で自己評価を行う。
	指導の状況に関するアンケート(教務主任対象)	
保護者	指導の状況に関するアンケート(校長対象)	
	子どもの教育についてのアンケート	「学校教育への要望・満足度」「家庭での働きかけの状況」「家庭・学校教育の役割分担」「学校の学力向上施策の成果」等についての認識を4件法で問う意識調査。

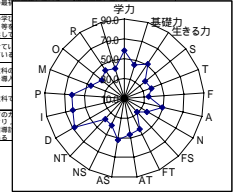


13 学力向上への教育学研究の貢献

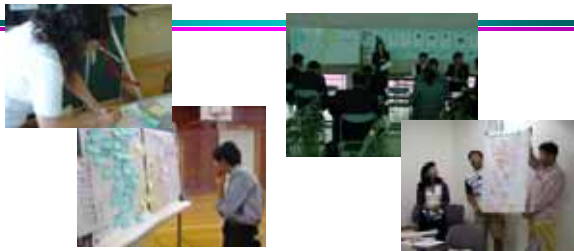
- 学力向上に王道無し
- ゆえに、各学校における学力向上への取り組みの意思決定をサポートすることが重要！
- 授業やカリキュラムを点検・評価するための項目や分析手法の開発(水越らの研究の継承・発展)
- 教員研修プログラムの刷新(藤岡らの研究の継承・発展)
- 新しい教員研修システムの提供

14 学力向上への教育学の貢献1 授業やカリキュラムを点検・評価するための項目や分析手法の開発

項目	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3
	急ぎ改善が必要	努力を要する	おおむね満足できる	十分満足できる
学習ガイダンス	学習ガイダンスを実施していない	年度当初だけは実施している	各学期の最終	
学び方指導	教科書の学び方から学習されていない	教科書の学び方について、多少は口頭で説明する	教科書の学び方・学習方法を指導している	
ファイル等の活用	学習ファイルを作成させていない	作成させているが、その活用が限られている	作成させているが、活用が広がっている	
教科プロジェクト	教科学習にプロジェクト学習を導入していない	いくつかの教科の学習にプロジェクト学習を導入している	多くの教科でプロジェクト学習を導入している	
IT活用	ITを活用していない	ITを活用しているが、一部の教科に限られている	多くの教科でITを活用している	
教科教育と情報教育の連携	教科教育と情報教育の連携を構築していない	情報教育がカリキュラムに含まれているが、それと教科の連携が不十分である	情報教育がカリキュラムに含まれているが、それと教科の連携が十分である	

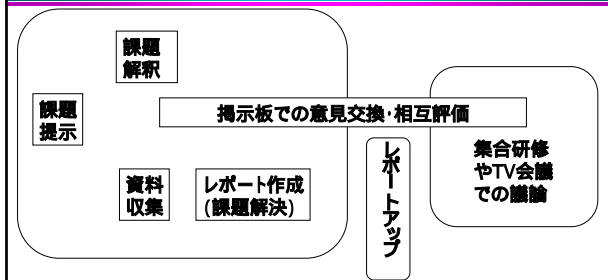


15 学力向上への教育学の貢献2 教員研修プログラムの刷新

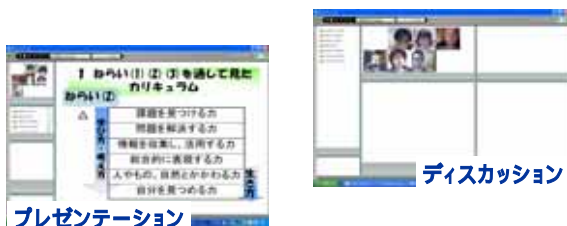


教師が主体的に、同僚と共同的に考える現職教育プログラムの提供

16 学力向上への教育学の貢献3 新しい教員研修システムの提供 Webを基盤とするカリキュラム・コーディネータ養成プロジェクト



17 学力向上への教育学の貢献3 テレビ会議システムによる リーダー間の意見交換



18 課題内容がポイント！

- 第1課題: S学校の総合的な学習プランについて、その長短所を整理しなさい。(学術的知識、一般的知識)
- 第2課題: 所属校の総合的な学習のカリキュラムの特徴をグループの他のメンバーにプレゼンテーションしなさい。(実践的知識、それと一般的知識等の異同)
- 第3課題: T小学校のカリキュラム開発記録を読んで、その問題点を克服するためのアクションプランを策定しなさい。(知識間の関連、葛藤=メタ知識)

19

IT活用への挑戦

- それが何によってもたらされたか -



教職経験が20年を越えた、この教師が初めてIT活用に取り組めたのは
- -。
所属校の研究課題は、
思考力を育む評価の工夫

学校の文化や歴史を尊重した導入プロセスをデザインする